

<会員のひろば>

高校生ゼミナール活動の発展のために

山下 正 寿 (高知県/高知高校生ゼミナール顧問)

全国で高校生の自主的平和学習活動が広がってきている。管理教育強化をはねかえし、歴史学習や現実の社会問題学習を通じて、自己変革をとげる集団づくりの輪が拡がりつつある。「高校生平和ゼミナール」と呼ばれる地域が多く、その地域の教育運動に支えられ特徴的な活動が展開されている。

◇ ◇

私たちの地域・幡多郡では、幡多高校生ゼミナール(「幡多ゼミ」と呼ばれるサークルが1983年8月に結成された。今までの組合主導型の行事中心の集会でなく、日常的な自主活動組織を育て、高校生自身の運営能力を高めるサークルをつくった。

沖ノ島強制疎開調査からスタートして、特攻基地調査、ビキニ水爆被災調査、在日朝鮮人問題調査と地域の現代史発掘を中心にとりこんでいる。調査は、顧問による基礎調査と資料集めを土台に、直接現代史の証言者たちから聞き取り、事実を重ねていく活動であり、高校生自身の主体的で対等な学習を保障し、教師から結論をおしつけられる受身的な学習姿勢を克服してきた。そして、単に現代史を発掘するだけでなく、その時の青年たちの生き方や現代の高校生への意見も聞き取り、自分たちの人生観にアプローチするものに高めてきた。「地域から青春と平和を見つめよう」というスローガンはこうして生まれた。

幡多ゼミは県立校9校(分校3)から毎年35~60名程が加入し、月2・3回程、主に土・日曜を活動日にしている。管理教育による妨害をはねかえすために学校からは独立し、本人の意志と父母の理解で活動する半ば社会教育的、広い意味のボランティアサークルと位置づけ、自由に判断し、活動できるシステムをつくっている。そして、顧問は各校の高教組組合員を中心に自覚的に指導・

援助している。財政も独立させ、パンフ、本、ビデオを普及し宣伝・カンパ活動をかねている。

結成3年目に入る1985年、被爆40周年からはじまったビキニ水爆実験被災調査は第五福龍丸以外の被災船の存在に光をあて、第五福龍丸事件、過去の問題として処理されてきたこの事件を全国延856隻の被災船、2万名近い関係漁民の放射能汚染問題とし浮び上らせた。7年間にわたる地道な調査は、『ビキニの海は忘れない』(平和文化、88年)の出版と同名のドキュメンタリー映画(90年制作、日本映画復興会議奨励賞、日本記録映画作家協会奨励賞受賞)となり、全国に拡がりつつある。

◇ ◇

一昨年より、四万十川流域に秘められた在日朝鮮人問題を追跡調査し、朝鮮人少女・玉蘭と花子の友情をえがいた演劇「渡り川」を上演した。

現在、朝鮮人強制連行や慰安婦問題が国際問題としてクローズアップされているが、全国には北海道・長野・千葉・岡山・広島・長崎・高知などで高校生がこの問題の掘りおこしと共に、日朝友好を民間サイドですすめる活動を展開している。こうした活動を全国的に集約し、今年の夏は四万十川で合同調査が準備され、来年度には韓国訪問が計画されている。又、この活動をドキュメンタリー映画として制作・上演する実行委員会を全国的に結成するよびかけもはじまっている。

全国的に新たな青年運動の展開が求められている時、高校生平和ゼミナールは学び、調べ、表現する自律した学習集団として飛躍の発展をめざしている。未来づくりを希求する協同総合研究所の研究課題として位置づけ、援助されることを期待している。